

新にいがた

大きな共同で安倍暴走阻止

新潟県革新懇が総会

2014年6月22日(日) 第1801号

発行所 新にいがた 長岡市曲新町1-12-14 ☎025(247)6366
毎月第4日曜日 定価150円(送料50円)1966年7月22日 第三種郵便物認可



革新懇づくりを活発に発言しあった総会=8日、新潟市

新潟県社会進歩の会(革新懇)は8日、新潟市で2014年度総会と講演会を開き、70人が参加しました。中村洋二郎代表世話人が「安倍内閣の暴走を阻止するには、大きな共同の力ではねのけていかなければならぬ。運動発展のため知恵を力を発揮しよう」とあいさつしました。報告した皆川襄事務局長は、会の県段階の運動は停滞状況はあったものの、三条、新発田、胎内の3地域革新懇が着実に活動を前進させ、地域革新懇の可

能性の大きさを示したと強調。9条ポスター運動や「渡されたバトン」の上映運動などで自主的な担い手が広がり、地域革新懇結成の条件が生まれており、「戦争をする国づくり阻止」などの国政課題と自治体の問題を話し合う場を広げ、組織づくりや青年革新懇づくりを進めていくことを力説しました。交流で、三条革新懇の西沢慶一氏が、結成後4年間の取り組みで革新懇が小中一校のマンモス校づくり反対の市民運動の政策面で

の要の役割を果たしたり、総会で従業員300人の中小企業社長が講演するなど、保守・無党派との共同も広がっていることを強調。胎内革新懇の羽田野一栄氏は、胎内リゾート再生問題懇談会と6年間続けている「憲法おしゃべり会」を発展させ、地域運動づくりを寄与したいと述べました。新発田革新懇の佐藤豊雄氏は、10年間25回の講演会やビデオ上映会、水道源地地を汚染から守る市民運動で650人の会員組織に協力し、「革新懇を楽しくて集まりやすい会」にしよう、7月に「水源のさとめぐり」のバスツアーを計画している」と発言しました。共産党の樋渡士自夫

県委員長は「一点共闘発展と地域での統一戦線づくりに力を注いでいる。革新懇を運動団体の一つとして考えるのでは役割を果たせない」と強調しました。他からも「最近の傾向として青年が結集する芽が生まれている。青年革新懇づくりを中心課題に」(民青同盟)、「革新懇を活動の中で意識してこられた」(民医連)などの発言が続きました。

TPP反対の一点で

新発田地域の会結成

TPP(環太平洋連携協定)をめぐる日米など各国の協議が重大段階を迎えるなか、どこころの新発田市で5月31日、「TPPを考える新発田地域の会結成のつどい」が開かれ、50人が参加しました。集会後、パレード

機感から、昨年11月と今年3月に集会を重ね、中越地区に続き2番目の地域組織結成となりました。TPP反対の一点での共同に賛同し、新しい顔ぶれや、若い母親、青年なども目立ちました。呼びかけ人の宮村幸男氏(市議)は「国会決議に反する協議内容から見れば、とっくに撤退するべきだった。怒りを禁じえない。農業だけでなく、全分野

に影響することから会結成になった。共同を強めていこう」と訴えました。講演した全国農連の眞嶋氏は「TPPはTPPが難航しているのは、TPPはA(貿易促進権限)法案をめぐり、アメリカ議会でも承認を得られないことも影響している。日本政府だけでなく、国際的に合意させない運動を高めることが重要だ」と報告しました。眞嶋氏は、2010年10月に新潟市で行われたAPEC食料担当大臣会合に合わせて行われた国際フォーラムが、日本のTPP反対運動のきっかけとなったことを強調し、「新発田での結成の意義は大きい。ローカル、ナショナル、グローバルな連帯でTPPを追い詰めていこう」と訴えました。



TPP反対を訴え、パレードする参加者=新発田市

高森勉事務局長が、会への賛同と入会を広げることや宣伝行動などを提案しました。代表委員の大川原さとみさん(元総合生協理事)が「みんなでアイデアを出し、みんなの力でTPPを阻止しましょう」と訴えました。参加者の長谷川久子さんは「話を聞いてよりの確信が湧きました。孫子の世代を安心な世の中にするために、TPP反対の声をもっともっと大きくしていきたい」と語りました。

被害、これ以上放置できない 全員救済1日も早く

第2次新潟水俣病訴訟で弁論開始 10人が追加提訴



弁論、追加提訴で地裁に向かう原告・弁護団＝新潟市

新潟水俣病の未認定患者らでつくる新潟水俣病阿賀野患者会の22人が、国と加害企業の昭和電工を相手取り、損害賠償を求めた「ノーマ・ミナマタ第2次新潟全被害者救済訴訟」（昨年12月提訴）で5月28日、新潟地裁で第1回口頭弁論が行われました。同日、新たに10人が追加提訴しました。

弁論・追加提訴に先立つ集会で、新潟水俣病共闘会議の中村洋二郎議長は「最初の裁判を始めてから45年がたつのに、国はいまだきちんとしておらず、被害者救済で責任逃れしている。絶対許せない。昨年9月に国に全面解決の提言を出しているのに話し合おうともしない。1日も早い全面解決のため裁判でたたかい抜きたい」と訴えました。

弁論で、皆川栄一原告団長（70）が「このまま被害を受けて、やられっぱなしのまま自分を押し殺していいのか。何十年もの間、患者を苦しめ、切り捨てをはかり、水俣病問題の幕引きをしようとしている国や企業を絶対に許す訳にはいきません」と陳述しました。

神田栄副団長（86）は「水俣病に人生を狂わされ、50年以上も肉体的にも精神的にも大変な苦しみを味わわれ続けている。生きていくうちに水俣病と認めてもらいたい」と訴えました。

弁論団5人が全被害者救済、被害と損害、病像などについて意見陳述。中村周而弁論団長は「これ以上、被害者を放置し続けることは絶対許されない」とし、国に水俣病行政の抜本的見直しと全被害者の新たな早期救済制度、司法の場による救済を求めました。

弁論で、皆川栄一原告団長（70）が「このまま被害を受けて、やられっぱなしのまま自分を押し殺していいのか。何十年もの間、患者を苦しめ、切り捨てをはかり、水俣病問題の幕引きをしようとしている国や企業を絶対に許す訳にはいきません」と陳述しました。



新潟水俣病共闘会議は14日、2014年度総会を開きました。全被害者の救済を勝ち取る決意がみなぎる総会となりました。

新新潟水俣病被害者の会の小武節子会長は「来年は新潟水俣病が公表されて50年を迎えます。公害の被害を繰り返さない決意を子どもたちに伝えていきたい」と述べ、新潟水俣病阿賀野患者会の山崎昭正会長は「すべての被害者救済を求めて、新たに患者会の32人が訴訟に立ち上がりました。高齢化する被害者の身体症状悪化、介護や生活、なくならない偏見差別の不安を社会の力で改善していきたい」と述べました。

公害・被害者 くり返さず

新潟水俣病共闘会議が総会

来賓の泉田裕彦知事は「水俣病の患者さんたちは偏見差別の中で声を上げて環境行政が改善され、私たちが安全な生活を送ることができています。国の継ぎはぎだらけの水俣病対策は世間での『エセ患者』呼ばわりをまん延させました。引き続き国に恒久的解決策を求めていきます」とあいさつ。篠田昭新潟市長は「被害を拡大させた国は全面解決への道を踏み出していません。特措法被害者手帳所持者の認定申請問題は本人の意志を確認して県とも相談して判断していきます」と述べました。中村洋二郎弁論士を議長とする役員案を採択しました。

心友会に指導強化を

県労連ユニオン要請

代表らは「法人が県に提出した適正化の報告書では、問題が起きた要因の多くを職員のせいにしてるのは問題。その内容について、職員への説明が何もしられていない」「理事長は変わっても、前理事長は出てきて指示している。処分を受けても以前からの独断横行が加速している。こういう状態に職員がざわついていて、これでいいのか。指導を強化してほしい」と求めました。県は「前理事長が入りしていることは正しくない。適正化計画がきちんとやられるよう指導を繰り返していく」と答えました。

新潟市秋葉区に本部がある社会福祉法人・心友会が運営する施設で、一部役員による不当労働行為や絶対的な職場管理が行われている問題で、県労連ユニオンは11日、県に指導強化を要請しました。佐藤一弥委員長、広川茂書記長、小野巨樹介護福祉支部長らが参加。日本共産党の竹島良子県議が同席しました。心友会は、介護報酬不正受給、虚偽報告など数々の問題で県から行政処分を受け、適正な運営を行うよう命じられていますが、前理事長は5月に辞任しましたが、依然職場に入ったりし、指示・命令していることが分かっています。

命輝く社会つくるろう

高齢期運動連絡会がシンポ

新潟県高齢期運動連絡会、新潟医療生協、新潟市民連などの実行委員会は10日、新潟市で「健康と平和、いのち輝く社会をつくるシンポジウム」を開き、180人が参加しました。鈴木克夫医療生協専務理事が「消費税増税や医療・介護改悪で高齢者が生きにくくなっている。一人ぼっちをつくらないために共同の力を発揮していきましよう」とあいさつしました。

シンポで4人が発言。地域包括ケア推進室

長谷川憲一さんが、新潟市の高齢者の平均寿命が全国平均並みだが健康で過ごす期間が長くないため、介護予防やリハビリへの取り組みを強化する必要性や、要介護度の重度の人や単独高齢者世帯、認知症の高齢者が多いことから、対策の強化を強調しました。

医療生協常務理事の加藤公子さんは、住まい・介護・医療・集いの複合施設「なじよむ」をつくり、組合員・住民が交流を深め、心身ともに健康になれる居



一人ぼっちをなくそうと議論しあったシンポジウム＝10日、新潟市

場所になっていると紹介しました。

勤労者医療協会友の会坂井輪総支部事務局の服部正史さんは、スパー軒先での「街角健康チェック」や保健学校による保健予防活動、一人ぼっちをなくす取り組みなどを紹介しました。

日本高齢者運動連絡

バリアフリーの駅づくりへ

県視友協が点検調査

新潟県視覚障害者友好協議会は5月25日、バリアフリーの駅づくりの改善をするために、JR新潟駅と東新潟駅構内で安全点検の調査活動を行いました。両駅合わせ、林正

新潟県視覚障害者友好協議会は5月25日、バリアフリーの駅づくりの改善をするために、JR新潟駅と東新潟駅構内で安全点検の調査活動を行いました。両駅合わせ、林正



新潟駅構内で調査する林会長(右から3人目)ら

会顧問の篠崎次男さんは、政府の方針が医療も介護も自助を基本とする自己責任論で、経済力の限界が命・老後生活の限界になると批判。在宅で高齢者・障害者の自立を援護する地域包括ケアシステムの公的整備と住民参加を強調しました。

でも昨年11月にホームから転落して、居合わせた乗客に助けられるという事態がありました。

調査活動では、改札口から白い杖をついて誘導ブロックに沿ってホーム内を歩きました。新潟駅8・9番ホームでは、誘導ブロックが古いタイプで溝が浅いため、方向が分かづらかったり、接近して柱が立っているためぶつかりそうになりました。4番ホームは、幅が狭く、誘導ブロックに切れ目が出て柱に衝突しそうな箇所もありました。

東新潟駅では、ホームの滑り止めと誘導ブロックの境目が分りにくかったり、2番ホームに案内放送が入らず、保安要員も午後6時までしかいないことが分かりました。

調査を終えて林会長は「視覚障害者にとっは公共交通はなくてはならない大切なもの。駅は『欄干のない橋』のようなもので、バリアフリーが不可欠です。JRも立ち会ってくれて、誠意は感じました。安全して利用できる駅づくりのため、JRに改善点を要望したい」と語りました。

でも昨年11月にホームから転落して、居合わせた乗客に助けられるという事態がありました。

調査活動では、改札口から白い杖をついて誘導ブロックに沿ってホーム内を歩きました。新潟駅8・9番ホームでは、誘導ブロックが古いタイプで溝が浅いため、方向が分かづらかったり、接近して柱が立っているためぶつかりそうになりました。4番ホームは、幅が狭く、誘導ブロックに切れ目が出て柱に衝突しそうな箇所もありました。

東新潟駅では、ホームの滑り止めと誘導ブロックの境目が分りにくかったり、2番ホームに案内放送が入らず、保安要員も午後6時までしかいないことが分かりました。

調査を終えて林会長は「視覚障害者にとっは公共交通はなくてはならない大切なもの。駅は『欄干のない橋』のようなもので、バリアフリーが不可欠です。JRも立ち会ってくれて、誠意は感じました。安全して利用できる駅づくりのため、JRに改善点を要望したい」と語りました。

社会医療法人 新潟勤労者医療協会			
理事長・高橋常彦	〒956-0814	新潟市秋葉区東金沢1459-1	Tel.0250(24) 5170
下越病院	〒956-0814	新潟市秋葉区東金沢1459-1	Tel.0250-22-4711
舟江診療所	〒951-8011	新潟市中央区入船町3-3629-1	Tel.025-229-3588
介護老人保健施設入舟	〒951-8011	新潟市中央区入船町3-3629-1	Tel.025-229-3588
沼垂診療所	〒950-0075	新潟市中央区沼垂東6-4-12	Tel.025-244-0116
坂井輪診療所	〒950-2054	新潟市西区寺尾東3-8-35	Tel.025-269-6630
おぎの里	〒956-0012	新潟市秋葉区荻野町3-8	Tel.0250-25-3071
ときわ診療所	〒950-0036	新潟市東区空城西1-15-17	Tel.025-274-2714
かえつクリニック	〒956-0836	新潟市秋葉区田家2-1-30	Tel.0250-22-5888
下越鍼灸施術所	〒956-0837	新潟市秋葉区吉岡町18-26	Tel.0250-23-3347
かえつ歯科	〒956-0831	新潟市秋葉区中沢町1-25	Tel.0250-25-5510

こころの友蔵さん

こころの友蔵さん

「手造り人形の家「友遊」の人形たち⑧」「佛はつねにいませども、うつつ(現実に)なぬぞあわれなる...」

《昔の歌謡》

現実ならぬ神佛は信じな
いけれど、野道や村の岐路
などに鎮座するお地藏さん
には親しみを覚える。

(高橋シズ)

地方政治と住民運動の専門誌

議会と自治体

月刊